

平成29年9月29日（金）、保育所（園）・認定こども園等の担任を対象として、第5回中部地区人権教育懇談会を開催しました。その内容を報告します。

講義「人間力を育む保育」

講師 常磐会短期大学 教授 ^{しめだ} 卜田 真一郎 氏

卜田先生には、クラス集団作りを考えることをとおして、子どもの内面理解の重要性と人権力を育む保育について御講義いただきました。

【主な内容】

○クラス集団は「育てるもの」

- ・さまざまな個性をもった子ども達を「集団として育てる」という視点を持つことが、担任に求められている役割
- ・クラスの中で「気になる子」を取り巻く関係性を育てる
「気になる子」を中核に、クラスの矛盾や小さな偏見、価値観を変革していく中で、本当にどの子ども輝けるクラスを作ることが可能になります。



○子どもの姿をより深く理解し、価値観を育てる

- ・生活活動、遊びにどのように取り組んでいるか（活動の系）と、周囲の人とどのようにかわり、自分をどうみているのか（関係の系）に着目して子どもの姿を捉える
- ・クラス作りは「コミュニティ」作り
クラス子ども達全体が「さまざまな個性を持った人と一緒に生きていくためにはどうしたらいいのか」ということを考え、共に生きることを実践できるための力を育むことが大切です。



○人権力のトライアングル

- ・「尊敬」のあるクラス（人を尊敬する力）、「公平」を追求できるクラス（公平性の獲得）、「反偏見」という価値観があるクラス（偏見をなくす力）
- ・保育者自身が持っている「普通」「当たり前」といった見方に揺さぶりをかけ、自分のものの見方や価値観、行動を見直す
人権のトライアングルの視点を意識することによって、クラスの中にある矛盾や小さな偏見が見え、保育の課題を明らかにして具体的な実践につなげていくことが大切です。

【参加者の感想より】

- 集団の中に入れない子を入れるのではなく、集団を広げていくという考え方がとてもわかりやすかった。その子のありのままを受けとめ、関わっていききたいと思った。
- 子ども達の将来を見通して、どんな子どもに育ててほしいのか、どんな大人になってほしいのかを考えながら日々子ども達と関わっていくことが大切だと感じた。
- 子ども一人一人の姿や集団をみていくために、保育課題を明確にすることや、価値観を育てる上で保育者や関わる者の価値観をどう持つかが改めて非常に重要であることがわかった。

講義の中で、「将来、子ども達が『さまざまな人たちが共に暮らしていくことができる社会（真の共生社会）』の担い手になる」というお話がありました。乳幼児期はその土台となる力を育む重要な時期です。園での勤務経験をお持ちの卜田先生のお話は、子どもの姿を具体的にイメージすることができ、担任の先生方にとって参考になるものばかりでした。ぜひ、今後の実践に生かしていただければと思います。

